

# 越谷市総合振興計画審議会 第4回会議

## 次 第

日時：令和7年8月27日（水）午後6時30分～

会場：越谷市役所エントランス棟3階 3-1会議室

### 1 開 会

### 2 議 事

第5次越谷市総合振興計画後期基本計画（素案）について

（1）部会審議結果報告について

（2）第4章 まち・ひと・しごと創生 越谷市総合戦略について

### 3 その他

### 4 閉 会



令和7年（2025年）8月27日

越谷市総合振興計画審議会

会 長 深井 晃 様

地域づくり・行財政部会

部会長 浅見 昭一

地域づくり・行財政運営部会審議結果について（報告）

地域づくり・行財政部会は、第5次越谷市総合振興計画後期基本計画（素案）第3章・分野別計画のうち、大綱1「多様な人が交流し、参加と協働により発展するまちづくり」について、慎重に審議した結果、概ね妥当であると判断し、下記のとおり主な意見をまとめ、報告いたします。

また、当部会で出された意見につきまして、別紙一覧のとおり併せて報告いたします。

記

- 1 市民と協働のまちづくりに関して、若者や外国籍市民などを含めた、さまざまな市民がまちづくりに参画できる環境整備に努め、持続可能な協働の仕組みづくりを目指すこと。

また、自治会や市民団体の活性化に関して、多くの市民の加入・参画を促進するため、自治会や市民団体と市が両輪となっておこなう協働のまちづくりへのさらなる支援および、活動を支える人材育成に取り組むこと。

2 男女共同参画社会の実現に向け、女性の社会進出の推進に積極的に取り組むこと。

また、外国人市民家庭への支援や相互理解の機会を充実させ、多文化共生の推進に取り組むこと。なお、指標については、実績とする対象事業を精査し、目標値を検討すること。

3 持続可能な都市経営に関して、申請手続き等のデジタル化やデジタル化による各種業務の効率化を推進し、人口減少が進んでいくなかでも効率的な行政運営を行うとともに、すべての市民の利便性向上に取り組むこと。

以 上

| No. | 大項目 | 中項目 | 頁  | 意見                                                                                                  |
|-----|-----|-----|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | 1-1 | 2   | 24 | 自治会加入率が低下している中で、転入者の多いマンション等の実態を十分に把握した上で、今後の「参加・協働」のあり方について検討するとともに、市民の役割と行政との関係性について、啓発していく必要がある。 |
| 2   | 1-1 | 2   | 24 | 行政と市民団体が両輪となってまちづくりを進めていくためには、互いに協力し合う「協働」の姿勢が重要であるため、現状に「互いに協働し、」という表現を加えるとよい。                     |
| 3   | 1-1 |     | 22 | 現状の「選挙の投票率や自治会加入率の低下」という表現について、投票率と自治会加入率を一括りにするのに違和感がある。                                           |
| 4   | 1   |     | 21 | 大綱名の表記について、改行位置の問題で「より発展するまちづくり」と読めてしまう。表現の変更をできないか。                                                |
| 5   | 1-1 | 2   | 24 | まちづくりにおいては、自治会においても、行政においても10年、20年先を見据えた「人づくり」が大切である。                                               |
| 6   | 1-1 | 2   | 24 | 若者が市政や協働の取り組みに参加し、まちづくりの活動に入ってきてもらうような視点がめざす姿に盛り込まれているとよいのではないかな。                                   |
| 7   | 1-1 | 2   | 24 | 広報紙の配布について、自治会の負担になっているという側面と、配布の過程で住民同士のコミュニケーションが生まれるという側面の両方がある。                                 |
| 8   | 1-1 | 2   | 24 | 外国籍市民にもまちづくりに参加していただくために、「若者や転入者・“外国籍市民”のまちづくりへの参画」とするのはどうか。日本語が堪能な外国籍市民も沢山いる。そういった方をまちづくりに巻き込みたい。  |
| 9   | 1-2 | 3   | 29 | 男女共同参画をうたっている以上、目標値は最終的に50%を目指すべきであると考えてる。                                                          |
| 10  | 1-2 | 3   | 29 | 審議会等の委員の構成の中で、女性の委員の割合はやや少ないと感じる。                                                                   |
| 11  | 1-2 | 4   | 29 | 市民活動支援センターの中に設置された多文化交流ひろばでの事業の参加者数が指標の参加者数に含まれるのであれば、数値の見直しについて検討していただきたい。                         |
| 12  | 1-2 |     | 26 | 若い世代にも理解されやすいよう「現状」の部分に記載のある「部落差別をはじめ様々な人権問題」という書き出しを「性的少数者をとりまく社会環境の変化や部落差別など」と変更することを検討いただきたい。    |
| 13  | 1-2 | 2   | 28 | 「社会教育における人権教育の推進」について、「部落差別をはじめとするさまざまな人権問題や多文化共生についての正しい理解」とすることで現場の実態に即した表現になるのではないかな。            |
| 14  | 1-2 | 4   | 29 | 両親ともに外国人の家庭が増えているため、「外国人家庭への支援」といった表現を加えるとよい。                                                       |
| 15  | 1-2 | 5   | 30 | 子どもたちへの訴求力を考えて、平和展に加えて、視覚的に訴える手法、たとえば夏休みに学校で映画の上映をすることなどを取り入れることを検討いただきたい。                          |
| 16  | 1-3 | 1   | 34 | デジタルによる効率化も重要だが、サービス面での改善も大切にしていきたい。                                                                |
| 17  | 1-3 | 1   | 34 | デジタル技術の活用により、限られた人材・経営資源を効率的・効果的に使える取り組みを行っていただきたい。                                                 |
| 18  | 1-3 | 1   | 34 | デジタルが苦手な人を取り残さないことを明記したい。「“すべて”の市民の利便性向上に取り組むこと」と変更するのはどうか。                                         |



令和7年（2025年）8月27日

越谷市総合振興計画審議会

会 長 深井 晃 様

福祉・保健・子育て部会

部会長 近澤 恵美子

### 福祉・保健・子育て部会審議結果について（報告）

福祉・保健・子育て部会は、第5次越谷市総合振興計画後期基本計画（素案）第3章・分野別計画のうち、大綱2「みんなが健康で共生して住み続けられるまちづくり」について、慎重に審議した結果、概ね妥当であると判断し、下記のとおり主な意見をまとめ、報告いたします。

また、当部会で出された意見につきまして、別紙一覧のとおり併せて報告いたします。

### 記

- 1 地域共生社会の実現に関して、障がいのある人もない人も、すべての市民が自由に集える「地域の居場所」の検討を行うとともに、民生委員・児童委員等の活動日数の向上だけでなく、活動内容の充実と成果につながる支援に取り組むこと。

なお、指標の設定に当たっては、内容を丁寧に説明するよう努めること。

- 2 地域の医療体制に関して、市立病院の担う役割は重要であることから、早期に経営改善に努めること。

3 こども・若者に関わるすべての人がこども・若者の権利について学ぶ機会を十分に確保するとともに、子育てサロンは、地域間のバランスを考慮しながら推進し、児童館は「こどもの居場所」として柔軟な運営を図ること。

4 生活困窮者への支援に関して、子どもの学習・生活支援事業の実施においては、保護者への案内や働きかけだけでなく、こども自身の参加意欲の醸成に努めること。

また、医療保険制度の維持に関して、健(検)診やフレイル予防等を通して、医療費の適正化に取り組むこと。

以 上

| No. | 大項目 | 中項目        | 頁              | 意見                                                                                                                                                                                                           |
|-----|-----|------------|----------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | 2-1 | -          | -              | 現状では制度が縦割りとなっている印象があり、総合的な地域共生にはつながっていないと考えている。講座などのイベントがある時だけ人が集まるのではなく、日常的に障がいのあるなしに関わらず、また、世代を超えて自由に集えるような「地域の居場所」が必要ではないかと考えている。                                                                         |
| 2   | 2-1 | -          | 38<br>39<br>40 | P38の「現状」やP40の中項目2 1 1の指標には、「地域福祉活動」という文言が使用されているが、P39の達成指標には、「地域活動」という文言が使われている。文言の統一を図るか、使い分けの意図を記載するなどの工夫が必要ではないか。                                                                                         |
| 3   | 2-1 | 211        | 39             | 達成指標「地域活動に参加している市民の割合」について、地域活動とは具体的には何を指すのかがわかりづらい。                                                                                                                                                         |
| 4   | 2-1 | 212        | 40             | 活動指標「民生委員・児童委員一人あたりの年間活動日数」について、なり手がいないので、活動日数を増やすよりも個々の活動内容を充実させ、少しずつでも成果につながっていくような支援を行うことが重要なのではないか。                                                                                                      |
| 5   | 2-1 | 212        | 40             | 民生委員の活動について、コロナ以降は家庭訪問を控えるよう要請があった。そのため、年間120日という活動日数の目標については、違和感を覚える。                                                                                                                                       |
| 6   | 2-2 | 222        | 44             | 地域における市立病院の役割は非常に重要であると考えている。                                                                                                                                                                                |
| 7   | 2-2 | 222        | 44             | 市立病院について、3年連続で赤字が続いており、市民の立場からすると、このままでは立ち行かなくなるのではないかという懸念を抱いている。                                                                                                                                           |
| 8   | 2-2 | 222        | 44             | 医療費の上昇や物価高、人件費の増加などが診療報酬に十分反映されていない現状では、経営が厳しくなるのは当然のことかと思う。実際、全国的にも赤字経営に陥っている病院が増えており、倒産に至るケースもある。                                                                                                          |
| 9   | 2-3 | 231        | 48             | 家庭児童相談員などが人権に関する研修を受けていると聞いているが、人権学習とこどもの権利の理解は性質が異なると考えているため、こどもの権利については、別途、学ぶ機会を設けていただきたい。                                                                                                                 |
| 10  | 2-3 | 231        | 48             | こども・若者に関わるすべての人がこども・若者の権利について学ぶ機会を十分に確保してほしい。                                                                                                                                                                |
| 11  | 2-3 | 231        | 48             | 家庭児童相談員について、児童相談所とは役割も性質も異なるが、相談する前から名称によって相談をためらう保護者が散見されるため、より親しみやすく、誤解の生じにくい名称への変更をご検討いただけないかと考えている。                                                                                                      |
| 12  | 2-3 | 232<br>234 | 48<br>50       | 産後ケア事業やこども誰でも通園制度について、ホームページなどを見た際に、対応できない場合があるという趣旨の記載があることで、申請や相談を諦めてしまう方もいるのではないかとと思われる。そのため、相談のハードルを下げるような表現にすることで、より多くの方に制度が届くのではないかとと思う。また、実際に「利用したいけれど利用できなかった方」がどの程度いるのかといった実態も把握しやすくなるのではないかと考えている。 |

| No. | 大項目 | 中項目 | 頁  | 意見                                                                                                                                                                                     |
|-----|-----|-----|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 13  | 2-3 | 233 | 49 | 活動指標「子育てサロンの講座開催数」について、子育てサロンの開催日数がある程度決まっているなかで、講座を増やすとなると、ひろば形式の開催数との調整が必要となる。開催日数そのものが増えるのであれば、調整することも可能かと思うが、現実的にはその調整が難しいのではないかと感じている。                                            |
| 14  | 2-3 | 233 | 49 | 子育てサロンの開催回数については、全体として増加傾向にあるとのことだが、地域ごとの状況を踏まえると、まだ十分とは言えない部分があると感じている。特にレイクタウン地域においては、子育て世帯数に対してサロンの開催回数が不足しており、地域のニーズに見合った支援が十分に届いていない印象がある。そのため、開催回数の増加だけでなく、地域ごとのバランスも考慮していただきたい。 |
| 15  | 2-3 | 234 | 50 | 児童館は学校と同様に禁止事項が多く、自由に過ごせる雰囲気ではないという意見が多くある。児童館を「こどもの居場所」として、より柔軟に運営していただけるよう改善をお願いしたい。                                                                                                 |
| 16  | 2-4 | -   | 52 | 「障がい者(児)が安心して暮らせる環境をつくる」とあるが、障がいのある人もそもそも地域社会の中で共生していく人たちの一人のはずなので、縦割りのような表現に感じる。<br>また、当事者の方一人ひとりに総合振興計画で掲げられたような内容が、わかりやすく伝わるとよいと考える。                                                |
| 17  | 2-4 | -   | 53 | 達成指標の「差別や人権侵害を感じている市民の割合」と「障がいに対する理解が進んでいると思う市民の割合」の目標は理想的ではあるが、現実的には高いハードルであると感じている。この目標を達成するための具体的な施策がないのであれば、目標値について現実的な数値に見直しを検討することも必要ではないか。また、施策がある場合は記載したほうがよいのではないか。           |
| 18  | 2-4 | -   | 53 | 障がいのある方のことをどのくらい市民が理解しているのかが重要だと思う。<br>「障がいに対する理解が進んでいると思う市民の割合」の目標値を100%としているが、これに向けた施策や取り組みが示されていた方がよいが、素案にあまり書かれていない。                                                               |
| 19  | 2-4 | 241 | 54 | 保育所等訪問支援について、小学校入学後も支援がないわけではないが、それまでと比べると大幅に減るようで、こどもの気持ちに寄り添う支援が、就学後も継続されることが重要と考える。                                                                                                 |
| 20  | 2-5 | 253 | 59 | 達成指標「認知症について関心がある市民の割合」について、目標値が「90%」と設定されているが、「100%」を目指してもよいのではないか。                                                                                                                   |
| 21  | 2-5 | 253 | 59 | 活動指標「認知症サポーター養成数」について、平日開催よりも土日開催の方が参加しやすいと思う。また、現地で参加できない方もいると思うので、ライブ配信や録画配信を行うと、さらに増加を望めるのではないか。                                                                                    |
| 22  | 2-6 | -   | 63 | 健(検)診の受診率の向上やフレイルや疾病の予防の推進といった取り組みをしっかりと実施することが、医療費の適正化に直結するのではないかと考えている。今後、高齢化がさらに進行することを考えれば、医療費が増加するのは当然の流れなので、その前段階である予防的な取り組みをいかに充実させるかが重要であると考えている。                              |

| No. | 大項目 | 中項目 | 頁  | 意見                                                                                                                            |
|-----|-----|-----|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 23  | 2-6 | 261 | 64 | 「生活保護制度の適正な運用」について、説明文に「民生委員・児童委員、社会福祉協議会」と並んで「ハローワークなどの関係機関と連携」という表現がある。文脈上、ハローワークを掲げていることにやや違和感を覚えた。より詳細な説明があるとわかりやすくなると思う。 |
| 24  | 2-6 | 261 | 64 | 子どもの学習・生活支援事業について、こども自身に参加意欲があるかどうかという点も把握する必要があると考えている。現状では、保護者への案内や働きかけが中心になっていると思うが、こども自身の声も拾っていただけるような取組みが進むことを期待している。    |



令和7年（2025年）8月27日

越谷市総合振興計画審議会

会 長 深井 晃 様

都市基盤整備部会

部会長 川島 衛

### 都市基盤整備部会審議結果について（報告）

都市基盤整備部会は、第5次越谷市総合振興計画後期基本計画（素案）第3章・分野別計画のうち、大綱3「都市と自然が調和した集約と連携によるまちづくり」について、慎重に審議した結果、概ね妥当であると判断し、下記のとおり主な意見をまとめ、報告いたします。

また、当部会で出された意見につきまして、別紙一覧のとおり併せて報告いたします。

### 記

- 1 越谷市に住む人が、越谷に愛着をもち、定住意向が高まるよう、需要と利便性を満たした市街地の形成および公共交通ネットワークの構築に努めるとともに、水と緑と市街地が調和した市の魅力のPRに取り組むこと。
- 2 道路の整備に関しては、交通事故防止、防災、環境・景観への配慮の観点から、必要な改修、改良を行い、交通事情に即した安全安心な道路環境の形成に努めること。

なお、指標の設定に当たっては、分かりやすい内容とするよう努めること。

- 3 緑地については、公園・緑道など、市民の憩いの場である新たな緑地の創出に取り組むとともに、屋敷林等の残されている緑地の保全を図ること。また、緑地を保全、創出、有効活用するための先進的な手法について調査研究を行うこと。
- 4 近年、激甚化している水害において、内水氾濫が多く発生している地域があることを課題として認識すること。また、水害対策が進み、公共下水道等のインフラ施設が計画的に管理された「安心して住めるまち」をめざすこと。  
さらには、水害対策と同時に、平時においては、水と緑に恵まれた越谷の河川・水辺の利活用によるにぎわいづくりや、新たな水辺空間の創出に努めるとともに、効果的な貯留施設の整備による水害対策の強化に取り組むこと。
- 5 高齢化や人口減少等の社会問題に対処するため、空き家対策や住宅セーフティネットの整備に取り組み、持続的で良好な居住環境づくりを推進すること。

以 上

## 都市基盤整備部会 意見一覧

別紙

| 項目順 | 大項目 | 中項目 | 頁  | 意見                                                                                                                                             |
|-----|-----|-----|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | 3-1 |     | 69 | 市政世論調査での公共交通に係る満足度について、鉄道、バス、タクシーの平均値だけでは、個別の満足度が分かりづらくなるため、目標値以外の進ちよくも測るようにしてほしい。                                                             |
| 2   | 3-1 |     | 69 | 公共交通の満足度については、パーソントリップ調査や国勢調査と整合を図りながら、進ちよく管理をしたほうがよい。                                                                                         |
| 3   | 3-1 | 312 | 70 | サンシティの整備方針に係る協議は丁寧に行っていると見受けられるので、指標を設定し、しっかりアピールしていくことが必要だと思う。                                                                                |
| 4   | 3-1 | 312 | 70 | レイクタウンに新たな集客地を設けるよりは、流通団地内の越谷市場などへにぎわいをつくることが重要であると考えている。                                                                                      |
| 5   | 3-1 | 314 | 71 | せんげん台駅から市立病院へ向かい、南越谷駅に到着するような需要と利便性を満たしたバス路線が望ましい。これまでも社会実験等が行われてきたが、利便性が低く成果が上がらなかったと考えている。駅と駅を結び、病院等の拠点を通過するようなバスを検討してほしい。                   |
| 6   | 3-1 | 314 | 71 | バスを走らせるための道路が整っていない箇所が多くあるが、優先順位をつけて整備を進めてほしい。                                                                                                 |
| 7   | 3-1 | 314 | 71 | めぎす姿の「越谷に愛着を持って、定住意向が高まる」ための要素を作るために、固定化された路線のみでなく、新たに住民となる人からの意見を反映した路線を設定することで、定着につながると考える。さらに、その事も含めて市の魅力をPRすることが、魅力ある越谷市をつくる上で重要であると考えている。 |
| 8   | 3-1 |     |    | 越谷市は農村地帯があり、河川があり、なおかつ社会インフラが整っており、市街地と緑が揃っていて住みやすい場所であることをPRした方がいい。                                                                           |
| 9   | 3-2 |     | 72 | 「都市計画道路の完成率」および「都市計画道路などの整備進ちよく率」における「完成率」と「進ちよく率」の使い分けについて、脚注等で分かりやすく記載するとよい。                                                                 |
| 10  | 3-2 | 321 | 74 | 「幹線道路・生活道路の整備」について、平方地区の五差路など、交差点改良を行わないと交通安全上支障がある箇所が市内に複数あると思う。計画に交差点改良についても記載していくことが必要と考える。                                                 |
| 11  | 3-2 | 321 | 74 | 平方地区の五差路を四差路にして、離れた箇所に交差点を設け、安全対策を行ってほしい。                                                                                                      |
| 12  | 3-2 | 321 | 74 | 平方の五差路については、分かりにくい構造であると思うので、分かりやすい道路を整備していく必要がある。近隣市町には、スクランブル交差点もあるため、検証しながら進めていただきたい。                                                       |
| 13  | 3-2 | 321 | 74 | 五差路など危険な形状にならないよう、事前に右左折して、通常の交差点となるような形状が好ましい。交通量については、地域によって差があると思うので、交通事情に即した整備を行うよう提言する。                                                   |
| 14  | 3-2 |     |    | 道路の整備に当たっては、交通事故防止のほか、防災や環境、景観について配慮し、安全で安心な道路の整備に努めてほしい。                                                                                      |
| 15  | 3-3 | 331 | 78 | 北越谷における元荒川の桜並木については、樹齢の関係から維持が難しいと聞いているが、桜以外の緑化などが可能であるならば進めてほしい。                                                                              |

| 項目順 | 大項目 | 中項目 | 頁  | 意見                                                                                                                                                                             |
|-----|-----|-----|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 16  | 3-3 | 333 | 79 | 79ページに生産緑地やパークPFIに関する記載を追加し、水と緑でつながるまちを総合振興計画上でも示すことができればよいと考える。生産緑地に関しては、人口減少や特例期間が終了すると減ってしまうことが想定されるため、緑の保全という観点から力を入れてほしい分野であると考えている。同様にパークPFIについても効果的な制度であると思うので検討いただきたい。 |
| 17  | 3-3 | 333 | 79 | 新方川や古利根川での緑道整備についても指標を追加してほしい。                                                                                                                                                 |
| 18  | 3-3 |     |    | 緑地について、保全を図ることに加え、緑地を新たに創出することに努めてほしい。また、先進的な手法の調査研究に当たっては、創出も含めてほしい。                                                                                                          |
| 19  | 3-3 |     |    | 屋敷林の保全について、所有者に対し、支援を行うとともに、計画上でも具体的に盛り込んでほしい。                                                                                                                                 |
| 20  | 3-4 |     | 80 | めざす姿について、近年甚大な被害が生じている内水氾濫に関する記載をした方がよい。                                                                                                                                       |
| 21  | 3-4 |     | 80 | めざす姿の説明について、八潮市の道路陥没などにみるように、インフラの管理が担保されていることが重要であると思う。「インフラが計画的に管理された安全安心なまち」という表現を加えるといい。                                                                                   |
| 22  | 3-4 |     | 81 | 課題の中に、「内水氾濫が発生している地域がある」旨の記載を追加してほしい。                                                                                                                                          |
| 23  | 3-4 |     | 80 | 川のあるまち越谷において、川の駅構想によってにぎわいをつくりながら、水辺の防災も視野に入れ水害対策も兼ねることができればよいと考えている。また特産品の流通経路を確保することにもつながると思う。例として、吉川市のウナギやナマズなど、いい製品が越谷市で仕入れやすくし、盛り上げることができるといい。シティプロモーションとも連携してほしい。        |
| 24  | 3-4 | 341 | 82 | 大吉調節池や西大袋調整池などは、治水対策に大きく貢献し、公園としても近隣住民の憩いの場にもなっていることから、ほかの場所でも整備を進めてほしい。                                                                                                       |
| 25  | 3-4 | 341 | 82 | 今後は、土地の利用形態に変化をもたらさなくても可能な地下の貯留施設の整備についても検討していただきたい。公園や公共施設の駐車場や緑地の地下、大型量販店の駐車場地下、学校のグラウンドや緑地の地下等、対象となる場所は多々ある。コンクリート式の地下貯留施設は費用負担も大きい、プラスチック製のものもあると聞いているため、参考にしてほしい。         |
| 26  | 3-4 | 341 | 82 | 全国的に豪雨が発生すると内水氾濫が発生し、特に児童生徒が危険にさらされてしまう。このため、幅員4メートル程度の道路であれば、市道と民地の境に砂利敷き区間を設けることで、民地側で貯水し、冠水を遅らせることができるのではないかな。                                                              |
| 27  | 3-4 | 341 | 82 | 活動指標「雨水貯留施設の整備」について現状値が0箇所、目標値が1箇所としているが、複数箇所で整備していくということなので、目標値を増やしてほしい。                                                                                                      |
| 28  | 3-4 | 342 | 83 | 網目のように張り巡らされた公共下水道管をすべてチェックしてメンテナンスすることは難しいと思うが、安全のため、県の下水道管と接続する箇所などを重点的に対応してほしい。                                                                                             |
| 29  | 3-4 |     |    | これからの開発について、量販店が別の大型施設に変わるような時や再開発をするような時に、駐車場等の地下に貯留施設を設けるよう市で指導してほしい。                                                                                                        |
| 30  | 3-4 |     |    | 水害対策と同時に、平時においても河川や水辺をにぎわいづくりに活用してほしい。                                                                                                                                         |
| 31  | 3-5 | 351 | 86 | 人口減少に伴う空き家の利活用や用途変更、高齢化等の社会問題に対応するセーフティネット住宅など、持続的な居住環境づくりについてさらに力を入れて取り組んでほしい。                                                                                                |
| 32  | 3-5 | 351 | 86 | 建築士会や建築事務所協会のほか、宅建協会や専門家として医師会などが連携できれば、住宅施策に関する事業の進展に寄与できると考えられるため、市を中心に検討していただきたい。                                                                                           |

| 項目順 | 大項目 | 中項目 | 頁  | 意見                                                                  |
|-----|-----|-----|----|---------------------------------------------------------------------|
| 33  | 3-5 | 351 | 86 | 空き家を自治会のサロンとして使うような方法も考えられると思うので、空き家が使える用途を広げていくと、空き家の有効利用につながると思う。 |
| 34  | 3-5 |     |    | 建築基準法の改正に伴う建物の用途変更について、空き家予防や住宅セーフティネットの観点から、もっとPRしていくことが必要である。     |



令和7年（2025年）8月27日

越谷市総合振興計画審議会

会 長 深井 晃 様

環境・防災・経済部会

部会長 中島 美三郎

### 環境・防災・経済部会審議結果について（報告）

環境・防災・経済部会は、第5次越谷市総合振興計画後期基本計画（素案）第3章・分野別計画のうち、大綱4「持続可能で災害に強い安全・安心なまちづくり」と大綱5「魅力ある資源を活かし、都市の活力を創造するまちづくり」について、慎重に審議した結果、概ね妥当であると判断し、下記のとおり主な意見をまとめ、報告いたします。

また、当部会で出された意見につきまして、別紙一覧のとおり併せて報告いたします。

### 記

#### 大綱4 持続可能で災害に強い安全・安心なまちづくり

- 1 指標の進捗を確認するためのアンケートを実施する際は、質問の仕方によって結果が左右されることが懸念されるため、市が5年後にめざしている姿との整合性を検証すること。
- 2 自主防災組織のカバー率について、カバーしていることと、実際に機能するかは別であるため、高齢化の進展などを考慮し実効性のある組織となるよう働きかけること。

- 3 市民による心肺蘇生法実施率について、蘇生率を上げるため、マップの配布などの周知に努めること。また、なるべく多くの方が講習や訓練が受けられるよう体制を整備すること。
- 4 希少植物種の保護実施箇所数を増やす取組みを進めるとともに、多様な種の生息環境の保全を目指して市民団体や関係機関と連携を図りながら各種施策を推進していくこと。

#### 大綱5 魅力ある資源を活かし、都市の活力を創造するまちづくり

- 1 水辺の活用を検討する際は、生態系の観点も考慮すること。
- 2 農業の多面的役割について、保水・遊水機能による水害の防止や大気の浄化などに関する取組みや、地域で農地を守っていく取組みに努めてほしい。

以 上

| 項目順 | 大項目 | 中項目 | 頁   | 意見                                                                                                                 |
|-----|-----|-----|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | 4-1 |     | 91  | 指標や目標値は5年後の状態を達成できるものなのか根拠が必要である。本来は、5年後のめざす姿から逆算して算出すべきである。                                                       |
| 2   | 4-1 |     | 91  | 進捗を測る際のアンケートの取り方で数字は変化してしまうため、本市が目指している姿との整合性をとって取り組んで欲しい。                                                         |
| 3   | 4-1 |     | 91  | 「市民1人1日あたりのごみ焼却量」について、例えば、CO2の排出量に換算するとどの程度減るのか、等のPRを含め実施するのはどうか。                                                  |
| 4   | 4-1 | 413 | 93  | 「希少植物種の保護実施箇所数」よりも、「生物の生息・生育に配慮した区域の面積」の方が指標としては適切ではないか。                                                           |
| 4   | 4-1 | 411 | 92  | 打ち水大作戦をやめてしまった理由について、打ち水の効果が薄かったためか、参加人数が少なかったためか調べて欲しい。                                                           |
| 5   | 4-2 |     | 95  | 「自主防災組織のカバー率」について、自主防災組織がカバーしていることと、実際に機能するかは別であるため、高齢化の進展などを考慮し実効性のある組織とすべき。                                      |
| 6   | 4-2 |     | 95  | 川を活用した船での支援物資の運搬や移動について、八条橋や潮止橋が老朽化でいつ落ちるかわからないなど、いろいろなことが想定されるため、例えば、災害時に船を利用した河川での支援物資の運搬など、川を積極的に活用する施策を考えてほしい。 |
| 7   | 4-2 | 422 | 96  | コロナ禍の後に、中断していた防災訓練を再開したところ、参加人数が大きく減っている傾向にある。地域防災力の向上とわかって自治会や自治連、コミュニティ協と連携しているが、取り組みが思うようにいかないため、行政の支援を期待したい。   |
| 8   | 4-2 | 423 | 97  | 振り込み詐欺やキャッシュカードの暗証番号を教えてしまったといったことが何回か発生しており、安心して暮らせるまちにするために自主防犯活動団体の支援は必要だと考えている。                                |
| 9   | 4-3 |     | 101 | 市内でAEDがどの位置に設置されているのか、マップの配布などの周知が行き届くほどに蘇生率が上がると思う。                                                               |
| 10  | 4-3 |     | 101 | 「市民による心肺蘇生法実施率」について、消防の方きて講習いただこうとしたが、6月に予約状況を確認した際10月までいっぱいだったということがあった。改善策を考えてほしい。                               |

| 項目順 | 大項目 | 中項目 | 頁   | 意見                                                                                                                                                         |
|-----|-----|-----|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 11  | 5-2 | 522 | 112 | 地域資源について、SDGsのウェディングケーキモデルとしては、一番下に基礎的な生物多様性などがあり、その上に経済などが乗っているため、環境に対し、何も働きかけをしないで維持できていると考えていることは間違いだと思っている。色々と補助するにも手間とお金がかかるため、環境政策課に予算をつける等力を入れてほしい。 |
| 12  | 5-2 |     | 111 | 自治会が配付物を配付できなくなってきたおり、市民が自分から情報を取りにいかねばならないようになっているため、地域とのかかわりを増やして行く必要がある。                                                                                |
| 13  | 5-3 |     | 115 | 「地場農産物の認知度」について、「メロン」が入っていない。越谷はメロンを打ち出していると思う。                                                                                                            |
| 14  | 5-3 |     | 115 | 農業について懸念されることは、立地条件等の記載があり、作れば売れると思われるが、高品質な商品を出さないと売れない。                                                                                                  |
| 15  | 5-3 |     | 114 | 農業の多面的役割について、課題は認識しているのであれば、取組みも記載すべきではないか。                                                                                                                |
| 16  | 5-3 |     | 114 | 農業の多面的役割について、グリーンインフラと呼ぶことはできないか。                                                                                                                          |
| 17  |     |     |     | 大綱ごとに区分けして委員同士で話し合っているが、他の大綱についても議論したい。将来的には区分けや進め方について検討して欲しい。                                                                                            |
| 18  |     |     |     | 外国人問題が神明町などでもあると聞いている。今後どのような政策を実施するのか。                                                                                                                    |

令和7年（2025年）8月27日

越谷市総合振興計画審議会

会 長 深井 晃 様

教育部会

部会長 新井 敏浩

### 教育部会審議結果について（報告）

教育部会は、第5次越谷市総合振興計画後期基本計画（素案）第3章・分野別計画のうち、大綱6「みんなが主体的に学び、生きがいを持って活躍できるまちづくり」について、慎重に審議した結果、概ね妥当であると判断し、下記のとおり主な意見をまとめ、報告いたします。

また、当部会で出された意見につきまして、別紙一覧のとおり併せて報告いたします。

### 記

- 1 「多様性の尊重」の重要性が高まっている。そのひとつとして、日本語を母語としない児童生徒に関して、文化的な相互理解や多様性を尊重し、日本語の指導および支援体制を充実させること。
- 2 芸術文化および伝統文化に関する事務を地域づくりの推進につながる施策と連携し取り組むこと。  
若者の芸術文化活動を積極的に支援するとともに、地域の伝統文化の育成や継承を図ること。
- 3 スポーツ・レクリエーション施設に関して、市民が安心・安全に利用できるように、空調設備の早期整備など環境整備を進めるとともに、計画的な老朽化対策に取り組むこと。  
また、指標の設定に当たっては、取組みの内容を適切に表すものとする  
こと。

以 上



| No. | 大項目 | 中項目 | 頁   | 意見                                                                                                                                                                                 |
|-----|-----|-----|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1   | 6-1 | 611 | 124 | 各教職員の得意分野を生かした学習指導ができる環境づくりが重要であるため、小中一貫教育の中でも、教職員の能力を活かした取組みを推進していただきたい。                                                                                                          |
| 2   | 6-1 | 615 | 126 | 今後、日本語を母語としない子どもがさらに増えていく可能性があるため、言語や文化の違いによる孤立や誤解が生じないように、引き続き柔軟な教育支援で対応をしていただきたい。                                                                                                |
| 3   | 6-1 | 615 | 126 | 多様性の尊重は、学校教育全体に関わる重要なテーマであり、重要性が高まっている。そのひとつとして、日本語を母語としない児童生徒への支援においては、言語や文化の違いを互いに理解し、認め合う姿勢が教育の現場では重要となる。そのため、文化的な相互理解や多様性の尊重といった視点を取り入れてほしい。なお、全体への認識を持つことは当然のこととして、意見するものである。 |
| 4   | 6-1 | 616 | 126 | セクハラなど教育現場における問題が取り上げられているが、あらゆる状況に対応するため、防犯カメラの設置や通話録音機能付き電話機の導入をしていただきたい。                                                                                                        |
| 5   | 6-2 | 622 | 128 | 新しい文化創造の促進およびシビックプライドの醸成にもつながるため、若者の芸術文化活動の支援を積極的に行ってほしい。                                                                                                                          |
| 6   | 6-2 | 622 | 131 | かつて大人の獅子舞の演舞の前座として、子どもの獅子舞が小学校などで披露されていたが、現在は活動が停止しているとのことである。獅子舞を展示できる資料館の建設を検討していただきたい。また、伝統文化の育成と継承を図るため、市として支援を検討してほしい。                                                        |
| 7   | 6-2 | -   | -   | 市民生活に密接に関わる施策が多いため、教育委員会が所管している文化に関する事務を市長部局に移管した方が、より実りの多い地域づくりの推進につながる。                                                                                                          |
| 8   | 6-2 | -   | -   | 文化芸術基本法の趣旨に則り、文化芸術の振興に関する基本理念や施策等を示す越谷市文化芸術振興条例を制定してほしい。文化都市宣言や教育振興基本計画の枠組みを超えて具体策を講じてほしい。                                                                                         |
| 9   | 6-2 | -   | 128 | 大項目「生涯にわたる学びを充実し、地域文化を振興する」の「地域文化」という言葉が、地元の伝統文化の振興という意味で使われているように感じる。新しい文化の創造や若者の芸術文化活動への参画を含んだ広い意味で捉えるために、「地域」を削除してほしい。                                                          |
| 10  | 6-2 | -   | -   | 財政の面から厳しいと思うが、ぜひ越谷市で美術館や博物館を建ててほしい。                                                                                                                                                |
| 11  | 6-3 | 631 | 134 | 活動指標「スポーツ教室の参加者数」について、健康体育教室、親子ふれあい体験教室、勤労者教室、いきいき元気教室、レイクタウンスポーツ講座に、生涯スポーツ講座の参加者数を加えてほしい。生涯スポーツ講座は越谷市独自の取組みであり、参加者の実績を鑑み、指標に含める方が適当である。                                           |

| No. | 大項目 | 中項目 | 頁   | 意見                                                                                                                                                |
|-----|-----|-----|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 12  | 6-3 | 632 | 134 | 近年の気温上昇により、安心して大会や練習を行える場所が限られている状況のため、スポーツ活動に制限が生じている。地域体育館の空調設備の早期整備および早急な老朽化対策をしてほしい。また、屋外施設では、快適な休憩施設の整備など熱中症予防ができる環境を整備し、安心して利用できる環境を整えてほしい。 |
| 13  | 6-3 | 632 | 134 | 公認スポーツ指導者は、講習会を受講することで認定を受け、資格更新をする際は改めて研修に参加しなければいけない仕組みとなっている。個人の負担が大きいため、登録や更新にかかる費用の一部を支援するなど、認定指導員が長く活動を続けられるように市として支援を検討していただきたい。           |
| 14  | 6-3 | -   | -   | 地域体育館については、学校教育活動だけでなく社会教育との連携も重要である。各施設の歴史や実情を踏まえ、地域スポーツの振興に関する施策を検討していただきたい。                                                                    |

**越谷市総合振興計画審議会 第4回会議  
出席職員名簿**

| 役職名            | 氏 名     |
|----------------|---------|
| 危機管理室長         | 渡 邊 智 行 |
| 広報シティプロモーション課長 | 水 口 圭   |
| 人権・男女共同参画推進課長  | 小 林 道 之 |
| 政策課長           | 野 口 毅   |
| 市民活動支援課長       | 石 原 孝 宏 |
| 障害福祉課長         | 山 崎 健 晴 |
| 地域共生推進課長       | 渡 辺 真 浩 |
| 地域包括ケア課長       | 西 岡 宏 城 |
| 子ども施策推進課長      | 関 泰 輔   |
| こども家庭センター長     | 角 屋 亮   |
| 保育施設課長         | 小 田 哲 郎 |
| 青少年課長          | 福 岡 敏 哉 |
| 地域医療課長         | 中 村 光 邦 |
| 環境政策課長         | 豊 田 裕 二 |
| 経済振興課長         | 和 田 竜 也 |
| 農業振興課長         | 内 田 英 行 |
| 道路建設課長         | 厚 沢 光 男 |
| 下水道事業課長        | 篠 崎 康 雄 |
| 都市計画課長         | 戸 張 直 樹 |
| 指導課長           | 千 嶋 淳 一 |
| 教育センター所長       | 田 嶋 栄 蔵 |
| 政策課調整幹         | 倉 澤 壮 太 |
| 政策課副課長         | 黒 澤 素 直 |
| 政策課主任          | 岩 崎 友 希 |
| 政策課主任          | 尾 崎 淳   |
| 政策課主任          | 大久保 雄 平 |
| 政策課主任          | 阿 彦 奈 菜 |
| 政策課主事          | 石 井 優 大 |